

## 蓬萊橋と金谷石畳ウォークに参加して

村松 通正

10日位前より、5月19日のウォーキングの天気を気にしつつ、予報を確認する日々を皆さんも過ごしていたのではないでしょうか。当日は天気に恵まれ良かったですね。

予定通りにバスは「道の駅掛川」に到着し、屋号の残る宿場町「日坂宿」の道沿いを歩き、沓掛の急坂を登りきるとそこは茶畠の続く景観で、薰風のさわやかなこれぞ茶処！！ 茶畠の道を歩くと「小夜の中山」の茶屋に到着。休憩、早速名物の「子育て飴」をいただく人、水分補給する人、束の間の休憩の後は出発です。急な下り坂をブレーキを掛けながら歩き、バスにて「金谷石畠」近くまで移動。「金谷石畠」は町民600名余が「一人一石運動」で430mを復元したそうです。昔にタイムスリップした様な気持ちで、一步々踏締めながら歩きました。

昼食は、「富士山静岡空港」へ、体を動かした後の食事は格別ですね。新しくオープンした「石雲院展望デッキ」にてお茶、コーヒーを頂き爽快な景観を堪能しながらの時間でした。「蓬萊橋」へ、役員の皆様が下見に出掛けた際の動画を見ましたら、ゴーゴーと吹き付ける寒風の中を大変ご苦労されたかと思いますが、当日は穏やかな風を感じながら会話も弾み渡り歩く事が出来とっても良かったです。

本日は快い汗をかき、楽しい時間を過ごさせて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

俳人  
佐野  
和彦

ビール汲む歩こう会は二十年  
神殿の屋根鮮やかに五月富士  
落葉踏む膝にやさしき神幸道  
夏めぐや方言まじるボランティア  
富士山構成資産めぐりウォーク  
飛ばされし夏幅いくつ河川敷  
難解の芭蕉の句碑や新茶の香  
沓掛へ急登あへぐ夏鸞  
蓬萊橋と金谷石畠ウォーク



## 7月の事務所休業日

1日(月)3日(水)6日(土)7日(日)10日(水)17日(水)  
21日(日)24日(水)27日(土)28日(日)31日(水)

## 富士山・構成資産めぐりウォーク

日向 治

富士宮歩こう会20周年記念行事の第2弾として村山浅間神社～山宮浅間神社～御神幸道～浅間大社を繋ぐコース(10Km)を歩く事に決まった。丁度富士山の文化遺産登録が関心を呼んでいる時もありタイミングな計画だと思った。この日を迎えるにあたり前のユニフォームを新調したり、村山旧登山道の整備、清掃、御神幸道の下草刈り、間伐材を利用した道標の製作、設置(御神幸道に3ヶ所)をしたりで下準備に汗を流した。参加者も202人と多く5月25日の早朝6時30分、富士宮駅南口はバスを待つ人達で溢れた。バス4台に分乗することになっており到着順に出発していった。今回は富士宮市・市観光協会のバックアップもあり、各バスにはボランティアの人も付き、遺産登録の話や構成資産の話などもして頂ける事にもなっていてアカデミックな歩こう会だ。7時30分に最後のバスが出て村山浅間神社8時に到着。準備体操などもバス毎に行われボランティアの説明を受けながら歩き始める。R469号は道幅も広く歩き易いが車も走りやすいので横に広がらぬように注意する。天気薄曇り。ウェーブルを引いた雲の中に残雪を置いた富士山が見える。道の向こう側に広い歩道が見えた所で一気渡りをする。暫らくは歩道も広く他に歩行者もいないので気の合う同士で話に花が咲く。山宮浅間神社でトイレ休憩、遺跡の説明を受ける。神社前の信号機を渡ると浅間大社までの下り一方の道は「御神幸道」と呼ばれた道で、明治の始めまでは神事が行われていたようであるが現在は行われなくなり、標石の殆んどが失われていて道筋もはっきりとはしないとの事である。道幅の割には車が多く行き交い、緊張しながら歩く。途中新しく設置した道標を見る。材質、字体、塗装となかなかの出来で周りの景色と合っている。これから先何年立っているか分からぬがここを通る度に汗を流したこと思い出出すだろう。陽射しの強い中ひたすら南下する。10時45分舞々木墓地に着く。ここは一寸した木陰もあり場所も比較的広いので暫しの休憩か？先着した人たちがアイスキャンディーを舐めている。タイミングのいい差し入れに感激。熱を持った体には一本のアイスも甘露、甘露。R139を歩道橋で渡ると最終地点神田川脇の御神幸道標に11時40分着。本殿に上がり神主の祝詞、巫女さんの舞などを見ているうちに雅楽「越天楽」のメロディーにコックリを始める。12時10分、神事が終わり一般参加の人達と別れ参集所に集合。この後、20周年記念と今日のウォークが無事に終了した事を祝して乾杯をする。さらに名誉会員の表彰、20年間会員であった人達の表彰など続いた。歴代会長の祝辞もいただき20年の歴史と実績はやはり重さがあると感じた。昼食会も話がはずみ、アルコールもちょっぴり入って楽しい一時となった。

富士山世界文化遺産に登録もこれからが本番で、認定されるまでにはまだまだ油断が出来ないようであるし、認定後も難しい問題が起きる。例えばすでに富士山西麓に設置が申請されているソーラー発電装置の問題。設置したために景観を損なうような事態になることもあるだろうし、そんな時どちらを優先させるのか、景観か経済か難しい舵取りを迫られることも出てくるだろう。これは全国どこの観光地でも問題になっていることで、富士山が世界文化遺産に認定された時点で、プラスの面とマイナスの面が出てくることだろう。これからも、私たち市民の一人ひとりが富士山という貴重な遺産に対し、もっと関心を持つことが必要ではないのだろうか。